

ド・モントフォート大学 (イギリス)

留学が始まり1か月が経ちました。あっという間だったように思えます。長い間この機会を心待ちにしていたので、トラブルも多いですが、目に映るもの、体験するもの全てが新鮮で凄く楽しいです。異国の地に一人で来ることによって、これまで自分の人生で身につけてきたものを存分に試すことができている実感があります。きっとまた一ヶ月もすれば、価値観の違いに戸惑い、講義や課題の多さに頭を悩ませることになるとは思いますが、今はただただ毎日が刺激的で、大変ですが生き生きとしています。

寮では、ペルー、コロンビア、そしてタイから来た学生とキッチンシェアしています。私が最初に到着したため数日間一人で少し寂しさを感じていたのですが、全員到着してからは賑やかで楽しい毎日を送っています。カルチャーギャップを感じることもありますが、今は全てが新鮮で、何もかも経験だと思える時期なので、そのギャップさえも面白く思います。授業が始まるまでの間、大学が主催するイベントにもいくつか出席し、ポーランドやイラク、ドイツ、香港やマレーシアなど、様々な国籍の学生と知り合うことができました。休日には一緒に公園に行ったり、アイスを食べたりと、今でも交流が続いています。ちなみにDMUは2万人ほど学生がいて、日本人はそのうちの20人だそうです。

講義が始まってからは毎日課題に追われています。何もかも一筋縄ではいかないため苦労は尽きませんが、授業はもちろん、この忙しい生活についていくことさえできれば、間違いなく1年後に大きな成長を遂げられているのではないかと感じます。落ち着きのない日々が続きますが、体調には気をつけて、楽しむ心を忘れずに頑張っていきたいです。

仁川大学校

(韓国)

この1ヶ月過ごしてみて、大変なことは多くありましたが、その中でも自分が大好きな韓国語を使って生活したり、韓国語の授業を受けることが出来たりして、とても嬉しいです。今は、韓国語まだまだだな…と思うことがあるので、その悔しさをバネにこれから進んでいきたいなと思います。

また、クラスは日本人がとても少なく、ルームメイトは韓国人なので、韓国語を話す機会が多いです。このような環境下に自分があることが出来て、とても良かったなと思うと同時に、この環境下で自分の韓国語レベルをしっかり上げていきたいと思っています。

オレブロ大学

(スウェーデン)

私の部屋があるフロアにはアイルランド人・フランス人2人・スコットランド人・韓国人・スペイン人2人の計8人がいます(彼らのことをcorridor mateと呼んでいます)。キッチンのみが共有スペースで料理をするとき以外あまり会うことはありませんが、私のcorridor mateは仲が良い方で、一週間に一度ほど自分の出身国の料理を作ってみんなで食べたりしています。私は日本の料理として焼きそばを作ってみなました。Corridor mate以外にも友人の共有キッチン借りて一緒にご飯を作って食べることもしばしばあります。

授業のない日は友人と一緒に勉強したり、映画を見たり、ショッピングに行くなどしており、今のところ寂しさは感じず、ホームシックにもなっていません。また、そうした友人との関わりの中で、仲良くなると友人の国の文化や問題について学ぶことができます。例えば先日は香港人の友人と夕飯を一緒に食べ、その際に香港問題についていろいろと話をしてくれました。現地の人から直接そうした話を聞くのは自分の教養を深めてくれるように感じます。

サザンメイン大学

(米国)

到着したその日は、自分がアメリカにいたことが信じられませんでした。というのも、時差ボケや疲労(精神的にも肉体的にも)で頭がほとんど働いておらず、とにかく「いまずぐ寝たい」という感情しかありませんでした。それでも空港や入寮の手続きなどで英語を使わなければならず、初日は本当に疲れました。また、普段でも聞き取れないネイティブの英語は、疲れていて尚更聞き取れず、初日から心が折れかけました。寮まで送ってくださったアドバイザーの方に、明日にはルームメイトが来ると思うと言われて、すごく緊張したことを覚えています。でも実際にルームメイトが来たのは到着して4日後で、4日間ずっと緊張していた自分がばからしく思えました。

とにかく最初の10日間ほどは、生活必需品はどこで買えるのか、学校に行くバスはどうやって乗るのか、図書館はどこなのか、食堂はどんなシステムなのか、課題はどこで確認できるのか、など本当にわからないことだらけで、その上頼れる人も友達もおらず、とにかく辛かったです。日本人もアドバイザーの方以外大学内に1人もいないので、悩みを打ち明けられる人も近くにおらず、常に気持ちが沈んでいました。

その上課題も1週目から大量に出されたので、いろいろなことが重なって本当につらかったです。生活する上での基本的なことが分からない辛さ、言葉が聞き取れない辛さ、辛さを共感してくれる人がいない辛さ、などいろいろな辛さを知りました。また、留学に来て「リスニング力」がいかに大切かということに気が付きました。なぜなら、相手が何を言っているのかが分からなければ、何を答えていいのかが、どんなリアクションをとったら良いのかが分からないため、話す練習すらできないからです。つまり、「リスニング」ができないと「スピーキング」の力を会話の中で伸ばしていくのは難しいと思いました。でも、留学に来ていなかったらこのことにすら気づいていなかったので、本当に留学に来てよかったと思っています。

やる気が出なくなったとき、辛くなったときは、自分が何故留学に来たのか、留学が終わるころにどうなっていたいか、というのを思い出して頑張っています。留学の辛さに耐えるためには、目標をしっかりと持つことが1番大切だと思います。1カ月がこんなにあつという間なら、残りの7カ月も本当にあつという間なのだろうと思うので、体と心の健康第一で、1日1日を大切にこれから先も頑張りたいと思います。

ウィーバー州立大学

(米国)

アメリカのユタ州、オグデンにきて一か月以上がたちました。正直なところ、一か月という感覚はなく、ついこの間来たばかりなのにもう一か月終わってしまったのかという気持ちです。日本の空港を出たときには、不安で押しつぶされ号泣していましたが、こちらについては、幸いなことに、素敵な人々に囲まれ充実した日々を過ごせています。楽しくて、早くもあと日本に戻るまで8ヶ月かと、思ってしまいます。存分に楽しみたいと思っています。大学の授業も5週目に入り、テストや様々な課題を課され忙しい毎日ではありますが、だいぶ慣れてきました。

横浜市立大学の授業と比べて思うことは、圧倒的に課題量が違うことです。全ての講義がセミナーやゼミに近いと思います。授業前には、資料や教科書を読んだり、動画などを見たりすることが求められます。そして、オンライン上のCANVASを使って、ディスカッションをし、小テストのようなクイズを受けなければなりません。英語を読むのに時間がかかるのでだいぶ苦労しています。ただ、ネイティブの友達にグラマーチェックをしてもらったりして、多くの学生に助けってもらいながら頑張っています。そして、教授も私が交換留学生であることを理解してくださり、気にかけてくれます。まだまだ、発言するのは難しく、黙ってばかりなので、発言できるようになりたいと思っています。